

平成四年度  
帯広市  
文化賞  
文化奨励賞

帯広市教育委員会

# 帯広市文化賞受賞者



なか じま おと じ  
中 嶋 音 路  
(英 男)

(90才)

## 〈受賞理由〉

氏は、長年にわたり、俳句一筋の活動を続けられ、その卓越した力量から、地域における代表的俳人として高く評価されております。

また、俳句雑誌「柏林」を創刊し主宰として編集、発行に携わり、俳句愛好者の育成指導に情熱をかたむけるなど、俳句の普及向上に寄与した功績はまことに大きなものがあります。

こうした氏の長年にわたる真摯な活動とその功績は地域文化の向上発展に大きく寄与するものであり、帯広市文化賞を贈り顕彰します。

## 〈略 歴〉

- 明治35年 寿都郡黒松内町に生れる。
- 昭和4年 「暁雲」主宰の青木郭公の指導を受け俳句の道に入る。  
帯広市に移住。
- 昭和10年 井浦徹人主宰の俳誌「峠」に入会。
- 昭和13年 富安風生主宰の俳誌「若葉」に入門、今日に至る。
- 昭和15年 高浜虚子主宰の俳誌「ホトトギス」に投稿を始め、今日に至る。
- 昭和29年 井浦徹人主宰俳誌「あきあじ」発行委員となる。
- 昭和36年 俳誌「岬」に入門、今日に至る。
- 昭和46年 俳誌「柏林」を創刊し主宰として今日に至る。  
十勝俳句連盟副会長就任、現在顧問。
- 昭和47年 句集「柏林抄」発刊。  
日本俳人協会会員、俳誌「岬」及び「若葉」同人となる。
- 昭和62年 十勝毎日新聞文芸俳句選者となる。
- 昭和63年 岬賞を受賞。
- 平成4年 「平成俳人代表作全書」に全国312人の俳人の1人として紹介をうける。  
俳誌「柏林」250号を発刊。(現在、誌友約400人)

# 帯広市文化奨励賞受賞者



まつ ざき ち え こ  
松 崎 千 枝 子

(46才)

## 〈受賞理由〉

氏は、道内指折りのソプラノ歌手として各地で精力的な演奏活動を続けており、その豊かな歌唱力は斯界より高い評価を受けております。

また、「こえだの会」を結成し主宰するなど、指導者としても声楽愛好者の育成のため尽力されております。

こうした氏の真摯な活動は、帯広市の音楽振興に大きく寄与するものであり、今後もますます期待するところが大きいので、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰します。

## 〈略歴〉

- 昭和20年 札幌市に生れる。
- 昭和22年 帯広市に移住。小学校4年よりNHK児童放送合唱団に入団、ソロで道内放送に多数出演。
- 昭和39年 武蔵野音楽大学入学。  
声楽を大森清、光信貞祿、ニーナ・ニュエッシュ各氏に師事。
- 昭和43年 同音楽大学卒業。東京、関西で音楽活動を行い多くのコンサートに出演。
- 昭和50年～ 帰郷。今日に至るまで、日本歌曲、オペラアリア、ドイツリート、イタリア歌曲等をレパートリーとして道内各地のコンサートに出演。
- 昭和51年～ 声楽教室を開設。  
音楽大学出身の声楽家集団「こえだの会」を結成し主宰、後進の育成にあたる。
- 昭和55年～ ハローコーラスの指導を始め、平成2年、同コーラスグループ「おかあさんコーラス全国大会」出場。
- 昭和61年～ 道新文化センター講師。
- 平成元年 帯広市民文化ホール柿落公演「オラトリオ 天地創造」でソプラノソリストとして帯広交響楽団と共演。
- 平成2年～ 帯広市女性短期大学講師。
- 平成3年 道民芸術祭中央音楽祭に出演。
- 平成4年 初の本格的ソプラノリサイタル公演。